



幼稚園に於ける

觀察的誘導

中村 五六

兒童が漸次發達して好奇心求知心と云ふ様な進取的活動が表はれて來る時期に達すると新しいおもちゃだの又は珍らしいものなどが大層歡迎される。従つて事物の觀察と云ふ方面には随分能く働くものである。玉コロがしを悦んだり、ドッコイ／＼と云ふものを悦んだりするのも此時代である。繪畫を見るを悦び讀本を見るを憚むのも是時である。いかけ屋が往來で鍋をいかけて居れば之を悦

んで見物するし馬が通ればお馬／＼と騒ぐ其他犬を觀察し猫に注意し蟹を捕へ龜と遊ぶ、凡ての自然物に親しんで之を知り之を覺えるのもつまり彼自身には珍らしく感ぜられ面白く見られる爲めに之に注意し之を觀察するからである。玩具などの中には此種の興味を利用したものが近來頗る多く出來た様である、彼の自動玩具と云つてセンマイや其他の仕掛で自動する様に出來て居るのは大底此種の興味を刺戟するものである。双六、雷かとしなども此類である。そこで幼兒は是等の觀察的の遊嬉に因つて得る所のものを材料として種々の心象が形成され知力が發達して行くのであるから教育上から見れば此種の遊嬉は適當な廣さと適當の深さとを有する様に導かなければならないものである。然し從來の幼稚園などでは是に餘り重きを置いて居ないから子供は年中峽き幼稚園の境界内に許り閉ぢ込められて廣き世間の現象に接することが出來ないで經驗の範圍が狭く、従つて家庭

に自由に育つて所々を歩き回らつて種々雑多の經驗を得て居るものに較べると其廣さに於て劣ると云はれるのは無理もないことである。

そこで今後の組織ある幼児教育には是非とも兒童をして如何なる事をどの位觀察せしむ可きかと云ふことを具案的に定めなければならぬと思ふ先づ其材料の方から考へて見るに物としては第一に自然物に就て適當な經驗を與へなければならぬ之に就ては近來所々の幼稚園で花壇を設けたり家畜を飼養したりして居るのは頗る時宜に適したものであるが動物などの中には逆も園内に飼養の出來ないものがある。假令ば牛、馬、野鳥、狐、狸の様なものである。是等は宜しく動物園の様な處に幼兒を連れ出して時々は見せることが必要であらう。又近頃の様な好氣節には野遊びで植物の觀察は尤も宜しい事だらうと思ふ。其他鑛物類にして水、土、石、金屬の重なものなどは夫れ々觀察させて置く必要がある。併し幸に自然物に對

しては近來大に重きを置く様になつたので何處の幼稚園でも幾分が注意して居る様である。

次には人工物の觀察であるが、其最も手近かで自然に行はれるのは身邊の被服や家庭の什器である是等は幼稚園などで特別に觀察せしむる必要もないが身邊や家庭を離れた屋外の物になると往々無智に過ぎなければならぬから此點が幼稚園の注意すべき所である。例を上げて見ると川、山、海、坂等の地理上の名詞より電車、瀛車、家屋、寺院、學校、病院等の名詞の中には幼兒にも相當に知らせて置く必要のものが随分ある。是等は適當に見せしむるより外に知らせる方法がないのであるから時々はそのこら引き張り回はして觀察せしむ可きである。一体幼稚園などに來ない所の子供は親兄弟も其氣になつて注意もすれば所々供々に連れ歩く事もあるから自然覺える譯であるが、一度幼稚園に子供を托すと云ふと最早父兄は教育的考慮を費す必要がない様に考へて頓と子供に注意し

ない人が多くの父兄中には無いとも限らぬから幼稚園では夫等父兄を俟たないで出来得る限り誘導の方法を講じなければならぬ。従つて時々は園外に連れ出して所々を歩るき回る必要がある。次には人種の區別である、家庭に於て父、母、兄弟、叔、伯母等の區別は出来るが尙此外に社會上に種々の區別あることを知らせなければならぬ又知つて居ることが幼児に取つても頗る愉快なことなのである。即ち兵隊さん、書生さん、お巡はりさん、等職業的區別は其重なるものである。所で此等の經驗は如何にして有せしめらるゝかと云ふに是も幼児を幼稚園内 推し込めて置いたのでは逆も出来る譯ではない。仍つて時々屋外に連れ出す必要がある。以上三方面に注意したらば物と云ふ事には可なり充分な經驗を有し併せて傳嬉の材料は得られる譯である。次に觀察せしむる必要であるのは、社會及自然界の種々の現象即ち「事」と名く可きものである。尙之を分類して見ると左

の通りである。

社會上の現象

- 一 職業の内容
- 二 社會上の出來事

自然現象

- 一 物理的現象
- 二 化學的現象

職業の内容と云ふのは兵隊さんは何をして居るか、大工さんは何んな仕事をして居るかと云ふことに就ての智識である。是が幼児には大なる興味と智識とを與ふるもので幼児の模倣遊戲の材料の大部分を供給するものである。従つて其教育的價値は大なるものであるが、此價値を充分收得せしめんには是又、幼児を時々連れ出して實際の場合を觀せしむる必要がある。次に社會上の出來事は如何と云ふには是は知らしめない方が都合のよい事もあり、時には却て他の害を起さぬとも限らないが併し矢張り普通一般の事は知らしむる方が得策である。神社佛閣の祭禮や縁日さては冠婚葬祭

式など夫々見させて有益でないことはない。是れに關して現在の幼児教育殊に幼稚園では頗る不親切であると思ふ。

次に自然現象と云ふのは地文上の現象や之に伴ふ動植物の上に表はるゝ現象などの事で多くは居ながらでも觀察できるものではあるが園外に觀察せしむ可きものも頗る多い。是も園外保育を要求する一理由である。

以上説明した通りで幼稚園では園外に幼児を連れ出して保育誘導を試みねばならぬ場合が頗る多いが今日之を實行して居る所が少ないのは何故だろうかと云ふに是れは一に保育の手が少なくて幼児を管理することが困難だからであるに違ひない。然らば之を救ふの方法は如何に云ふに先づ全幼稚園の中で順番に一人宛線合せて園外保育の當番と云ふ様なものになり、そして幼児も其數を平常の一組の四分の一位に減じて交互代るゝに園外に引率したらよからうと思ふ。併し幼稚園の園外保育は

彼の小學校などの運動會や遠足旅行など、同一視してはならぬ。決して一時的にお祭り騒ぎなどを可きものではないので云は、幼稚園に於ける校外教授であるから折だに能くば絶えず時々觸行す可きものである。亦之を行ふには何も瀛車や馬車など驅りて數十丁の外に連れて行かなくともよいのである。況して辯當や晝食の用意などをしなければならぬ程の遠出をする必要はないのである。それから一つ之を行ふに都合のよい事は幼稚園に助手を少し餘計置くことである。助手の手が多ければ多い程保母は充分な活動をする事が出来る。従つて園外保育も充分に手が回る譯である。斯く云ふと或は其は經費に關係すると云ふかも知れないが是は經營次第で左のみ經費を増すものではないと思ふ。